Annual Activity Report

2020-2021

認定NPO法人テラ・ルネッサンス / 2020年度年次報告書



Terra Renaissance

ひとり一人に未来をつくる力がある

認定NPO法人 テラ・ルネッサンス







2020年度・活動のお礼とご挨拶

危機に直面する今だからこそ、想い返すこと



理事長
海外事業部長
小川真吾

コロナ禍の規制により現場での職業訓練など活動を一時期停止せざるを得ない状況が続きました。しかし一方で、感染予防対策や生活が困窮した人々への支援ニーズは著しく高まる中、日本の皆様から多大なご寄付を預かり、アフリカで感染予防対策や緊急支援などを約20万人の方々に対して行うことができました。世界中がコロナ危機に直面している今だからこそ、当会の存在意義を想い返し、これまでの経験とノウハウを活かし、支援者の皆様とともに、これからも国内外で「ひとり一人に未来をつくる力があること」を示し続けていきたいと思います。

制約の中でこそ、イノベーションを図っていく



創設者・理事
事務局長
鬼丸昌也

2020年度は、コロナ禍による制限の中でも、各地のスタッフが創意工夫をしながら活動を展開しました。例えば、オンライン報告会を実施すると、地理的条件などで報告会に参加できなかった方が、それらに参加くださるように。「報告を聞いて、テラルネをもっと応援したいと決めた」と、こちらが勇気をいただきました。制限や制約があるからこそ、事業と組織のイノベーションを図り、どんなことがあっても、「すべての平和が安心して生活できる社会（＝世界平和）」の実現を追求し続けていきます。

厳しい状況でも、自立と自治の推進をめざして



理事
アジア事業マネージャー
カンボジア事務所長
江角泰

カンボジアでは、新型コロナウイルスの影響で、国境の閉鎖や観光で大きな影響がありました。さらに、2020年10月には大洪水がカンボジア全土で発生し、作物の被害や仕事を失った人も多くいました。そのような中、緊急自立支援を実施した際には、日本の皆様からのご支援に、私自身の心が温まりました。2020年度の終わりから、カンボジアやラオスでも新型コロナウイルスの感染拡大が加速し、厳しい状況が続きますが、地域の中で経済を回し「自立」と「自治」をさらに推進していきたいと思います。引き続き、ご支援をよろしくお願いいたします。

震災から10年、復興の道を共に歩めたことに感謝



理事・大槌刺し子事業部長
政策提言推進室長
吉田真衣

2021年3月11日で、東日本大震災から10年が経ちました。同年6月から始まった「大槌復興刺し子プロジェクト」も、おかげ様で10年を迎えようとしています。これまで、209名の方々がプロジェクトに参加し、39,808,500円を工賃としてお支払いすることができました。10年間、本プロジェクトを通して、刺し子さんと共に復興の道を歩むことができたことに感謝申し上げますとともに、今後とも活動に対するご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

スタッフ一覧 - 世界で活動する仲間たち -

本部事務局(京都)


創設者・理事
事務局長
鬼丸昌也


事務局次長・啓発事業部長
ブランディングデザイン室長
小田起世和


啓発事業部
講演企画・支援連携 担当
栗田佳典


啓発事業部
寄付・法人連携 担当
藤森みな美


啓発事業部スタッフ
寄付・法人連携 担当
津田理沙


啓発事業部スタッフ
寄付・法人連携 担当
福井妙恵


管理部長
隅田千恵


管理部
西川智子


啓発事業部
支援者サービス 担当
上野知子


啓発事業部
オンラインマーケティング担当
佐賀事業マネージャー
島 彰宏


啓発事業部スタッフ
海外ファンドレイジング
台湾 担当
香葉村 萌


ブランディングデザイン室
スタッフ
鎌田久美子

本部事務局インターンシップ(研修生)


今津千尋


高口 望


田畑勇樹


元浦菜摘
2021年度
カンボジア滞在


村木嘉映


田代 啓


小川さくら


野田怜弥
2021年度
ウガンダ滞在

カンボジア事務所


理事・カンボジア事務所長
アジア事業マネージャー
江角 泰


プロジェクト
コーディネーター
クン・チャイ


プロジェクトオフィサー
リー・サリアップ


農産物販売担当
ヨート・イェト


フィールド事務所警備員
チュン・ルン


ドライバー
アシスタント
カーイ・サロン


バッタンバン事務所
警備員&アシスタント
ルン・サウ

大槌事務所


理事・大槌刺し子事業部長
政策提言推進室長
吉田真衣


会計担当
黒澤かおり


生産管理担当
佐々木加奈子

佐賀事務所


啓発事業部 佐賀事業・
政策提言推進室 担当
佐々木純徹

ラオス事務所


プロジェクト
マネージャー
飯村 浩


プロジェクトアドバイザー
センケオ・シソブン


プロジェクト
コーディネーター
ウテン・ポンカムパン


プロジェクトオフィサー
**ノックナー・
ビムミサイ**


プロジェクトオフィサー
**ナムチャイカム・
ニョイサイカム**


回避教育トレーナー
ウォンサイ・ムア


経理アドバイザー
**スーチャイ・
ポンマワン**


回避教育トレーナー
アシスタント
**ソムサヌック・
ドゥワンチャイ**

コンゴ事務所


理事
海外事業部長
小川真吾

アフリカ事業
コーディネーター
トシャ・マギー

プロジェクトマネージャー
ロジャ・カニィンダ

プロジェクト
コーディネーター
ルイス・ムケカ

財務管理担当
ジョングリ・マオンビ

ドライバー
**ジャンルック・
イルンガ**

コンゴ事務所長
テオフィー・チシバンジ

プロジェクトオフィサー
**フィデーレ・
バハティ**

フィールドオフィサー
クロピス・チンゴンベ

フィールド
コーディネーター
ピーター・パセネネ

ロジスティシャン
ケビン・マタビシ

会計担当
ヘレネ・ナンタムヤ

資産管理担当
**ジャンピエール・
チルフラ**

倉庫管理担当
**エマニュエル・
ントゥブバ**

ドライバー
**ギスライン・
ビシムワ**

家畜飼育訓練担当
アンドレ・ムデルワ

警備員
ドルフィン・ソナ

警備員
**フォーステン・
チャブィヌエ**

清掃員
マミー・ムプテゥ

警備員
**パテゥドゥ・
マルホゲザ**

警備員
フィストン・カジェンバ

ブルンジ事務所

アフリカ事業
サブマネージャー
古岡 薗

プロジェクト
コーディネーター
エジマナ・パシフィック

ドライバー
マサボ・ティエリ

セクレタリー
**ンデレイマナ・
フェリキール**

トレーニングオフィサー
ムレルグワ・ゼノン

フィールドオフィサー
ジョゴリ・ディオメデ

ウガンダ事務所(グル)

アフリカ事業
マネージャー
鈴鹿達二郎

ウガンダ事務所長
オテマ・ジミー

能力向上支援担当長
オドン・ベンソン

プロジェクトオフィサー
アバロ・レベッカ

管理・会計補佐
**アワチャンゴ・
コンシネイト**

能力向上支援担当
(洋裁訓練講師)
オコト・ジョセフ

能力向上支援担当
(服飾デザイン講師)
オボル・サム

能力向上支援担当
(木工大工訓練講師)
オラー・サミュエル

能力向上支援担当
(洋裁訓練講師)
アニェコ・ビッキー

心理社会支援担当
オジョク・デービッド

BHN支援担当
**アティム・
クリスティーン**

BHN支援担当
ニィエー・グレイス

セキュリティ担当
オモヤ・チャールズ

セキュリティ担当
オチャカ・ジャコブ

ドライバー
オピナ・ディケンス

ウガンダ事務所(アジュマニ)

プロジェクト
コーディネーター
ジェームズ・カオ

管理・会計補佐
ミシェル・ビチュラ

木工大工訓練講師
エチマ・アイザック

洋裁訓練講師
オダマ・マイケル

洋裁訓練講師
アクル・ジョアン

編物訓練講師
リミオ・エヴァリン

編物訓練講師
ムングディア・ジェーン

レンガ積み工訓練講師
カカク・キジト

レンガ積み工訓練講師
アリア・カディジャ

養豚訓練講師
ピーター・ラジュル

養豚訓練講師
ダウディ・エマニュエル

溶接訓練講師
オレマ・ジャスティン

溶接訓練講師
モリ・チャールズ

ビジネス訓練講師
タバン・アリカンジェロ

保健スタッフ
アケチ・エヴァリン

ドライバー
オジョク・デリックソン

ロジスティシャン
シティマ・ケミス

清掃調理担当
マコミコ・サラ

清掃調理担当
アシアンゾ・ジャネット

清掃調理担当
ステラ・バヨア

セキュリティ担当
エベル・ピーター

セキュリティ担当
ドゥク・ジョージ

セキュリティ担当
アイザック・ビル

セキュリティ担当
アソバシ・パトリック

※2021年6月末時点

活動地域・内容 / 解決に取り組む課題



コンゴ民主共和国	●最脆弱層世帯の養蜂ビジネス企業支援プロジェクト ●子どもの徴兵予防プロジェクト ●紛争の影響を受けた最脆弱層女性に対するレジリエンス向上支援プロジェクト
ウガンダ共和国	●南スーダン難民居住区及びホストコミュニティにおける自立支援プロジェクト ●元子ども兵社会復帰支援プロジェクト ●畜産支援による酪農組合開発事業(第２フェーズ)後方支援事業
ブルンジ共和国	●農村部コミュニティにおける社会的弱者(EVIs)世帯の自立と自治支援プロジェクト ●帰還民女性・国内避難民女性の社会経済的エンパワメントプロジェクト
カンボジア王国	●地雷撤去支援プロジェクト ●地雷埋設地域村落開発支援プロジェクト ●地雷埋設地域の脆弱な障害者家族への生計向上支援プロジェクト
ラオス人民民主共和国	●社会的弱者家庭への不発弾回避教育と生活基盤整備支援プロジェクト
日 本	●啓発活動(講演、ワークショップ、スタディツアーなど) ●政策提言(武器貿易条約締結に向けたキャンペーン及び政策提言活動など) ●東日本大震災復興支援活動(ともつな基金／大槌復興刺し子プロジェクト)


地 雷


小型武器


子ども兵

＋


平和教育

目的の世界 テラ・ルネッサンスの目的（ヴィジョン）

すべての生命が安心して生活できる社会（＝世界平和）の実現

使命の樹 テラ・ルネッサンスの使命（ミッション）

当会の事業を通じ、人々に『次世代に対する責任』を啓発し、
それぞれが個人、家庭人、社会人、そして地球市民として、
未来の子どもたちの生活をも視野に入れた生活（簡素な生活）を
実践することにより、人類共通の理想『世界平和』を実現する。

理念の土壌 テラ・ルネッサンスの活動理念

1. 私たちは一人ひとりに「未来をつくる力」があると信じ、
   市民の可能性を追求しています。
2. 私たちは内なる変化がすべての変化の始まりであり、
   変革の主体者は私自身であることを理解しています。
   そして、他人も変革の主体者であることを理解し、
   相手を尊敬しています。
3. 私たちはあらゆることは常に変化することを理解し、
   あきらめずに活動し続けています。



ひとり一人に未来をつくる力がある

テラ・ルネッサンスのすべての活動は、設立目的（ヴィジョン）を追求するために行われます。
ヴィジョンを達成するために、責任を持って果たさなければならない任務が使命（ミッション）です。
そして、すべての活動の指針となるのが、活動理念です。

2020→ 2021 ACTION TOPICS

2020年度 活動成果のトピックス

ラオス　→ P12〜

キノコ小屋平均32kgの生産を達成！収支の記録・管理も行えるように

キノコ栽培・販売をする小屋１棟当りの平均は、生産が約 32kg、売上が約 50 万 Kip(約 5,800 円)に。家計簿とビジネスの研修を通して安定した収入を目指します。



収穫したキノコは市場で販売します



新しい地雷撤去機械 “Digger-250”

カンボジア　→ P13〜

地雷撤去支援で5,554世帯に安全になった土地を返還

提携する地雷撤去団体 MAG へ運営費を提供することで、東京ドーム７個分に当たる 324,833 ㎡の土地を、安全な土地として返還することができました。

ウガンダ　→ P20〜

自立支援を受けた元子ども兵の累計227名に

今年度は 71 名に対して自立支援を実施。コロナ禍で約半年間の訓練停止期間があったものの、再開後は洋裁や服飾デザイン、木工大工の技術訓練を実施しました。



洋裁の訓練にもマスクを活用しています



自宅での家畜飼育をモニタリング・助言中

コンゴ　→ P23〜

全対象者250名の子どもたちに学用品を供与

コロナ禍で小学校が閉鎖されましたが、再開後は学用品や制服を供与。子どもたちの受け入れ家族 50 世帯には家畜の提供や飼育技術の訓練を行いました。

ブルンジ　→ P27〜

UN WOMENと協働、1,000名の収入の向上を目指す

帰還民・難民女性には恒久的・持続的な解決策が必要です。組織化し、研修を受けることで対象者自身も組織の運営やコミュニティワークに取り組んでいます。



研修を受ける様子



募金にも参加しました！

大槌復興刺し子プロジェクト　→ P32〜

売上や寄付の合計198,247円を熊本豪雨の支援金に

2020 年７月の熊本豪雨を受け、対象商品の売上 50%をボランティア活動支援金として寄付するキャンペーンを実施。現地の災害支援活動に使用されました。

啓発事業　→ P38〜

講演減少するも8,001名の方へオンラインで啓発を実施

コロナ禍の規制で講演会の減少が見込まれる中、オンラインを活用して啓発活動を実施。それぞれの状況に合わせた、新しい講演のスタイルが生まれました。



マスクをつけての高校での対面授業



毎月2種類の野菜栽培訓練を受け、家庭菜園をするネン・パットさん

＼ アジア事業・カンボジア 活動トピック ／

コロナ禍でも収入を確保。
リスクを理解し自立できるようになった、イェン・ハンさん



地雷被害者のイェン・ハンさん(50歳) は、カンボジア王国バッタンバン州カムリエン郡に住んでいます。2017年から開始した脆弱な障害者家族への生計向上支援を受け、ヤギ、牛、鶏の飼育と、家庭菜園を実施してきました。2017年に多額の借金返済のため、タイへ出稼ぎに行きましたが、お金が手元に残らずカンボジアへ帰国。2020年度には、コロナ禍でも多様な収入源を確保し、生計を向上できました。「今は一番大きな収入になるヤギの値段が、これから下がることも考えられる。だから、牛や鶏も飼育し、今後は豚も飼育したい。」と語るハンさん。リスクを理解し、自然と共生した生活を実践することで、「自立」できるようになった世帯です。

国際協力事業 アジア

2020→2021 Asia Region Project CAMBODIA LAOS

カンボジアとラオスの2カ国で、地雷や不発弾の被害者を含めた障害者世帯やコミュニティへの生計向上や教育支援を実施してきました。カンボジアでは、引き続き機械チームによる地雷撤去支援を進め、村落開発支援として、モデルファームの建設、ファーマーズ・マーケットでの販売支援、家畜銀行などの活動をしました。バッタンバン州カムリエン郡の障害者世帯への生計向上支援事業は、最終年の活動を実施。一方、ラオスでは、シエンクアン県ペック郡ヨートグム地域の不発弾汚染地域において、3歳から7歳までの子どもに不発弾回避教育と、不発弾被害者家族および貧困層を対象とした職業訓練 (裁縫、キノコ栽培、養蜂) による生計向上事業を実施しています。



［ カンボジア事務所 ］
理事・アジア事業マネージャー
カンボジア事務所長
江角 泰

課題と展望

農村部での生計を安定させる取り組みが必要

カンボジア、ラオスとも、2020年度末に新型コロナウイルスの感染が拡大してきており、経済的な影響が大きくなり始めています。タイへの出稼ぎや都市部での工場労働なども難しくなっており、農村で生計を成り立たせていく必要性があります。カンボジアでは、これまで支援してきた村のなかで収入源を確保する家畜飼育や野菜栽培を見直す村人たちが多く、まだ全てのリクエストに答えられていません。ラオスでは、幼稚園と小学校での回避教育が、コロナ禍による学校閉鎖で難しく、村での回避教育を重点的に行う計画です。先行事業から継続の養蜂は、コロナ禍で観光客が激減したため、地元の人に蜂蜜の価値を知ってもらい、販売量を増やす取り組みが必要です。キノコ栽培はカビ等による汚染を減らし、生産を増加できるような技術面でのフォローアップが必須です。

1 ［ ラオス ］社会的弱者家庭への不発弾回避教育と生活基盤整備支援プロジェクト

事業の目的	不発弾回避教育により対象地域の幼児らが爆発事故を回避するとともに、 将来的に高等教育を受けられるよう「社会経済的に脆弱な人々」が技術を習得し、 安定した収入を得られるようにする		
事業地域	ラオス/シエンクアン県 ペック郡ヨードグム地域	受益者数(累計)	直接受益者：1,546名 間接受益者：2,390名
受益者カテゴリー	不発弾被害者、 不発弾汚染地域の脆弱な世帯	事業実施期間	2020年4月～2022年8月


1


2


3

研修などにより、収支の記録や管理ができるように

コロナ禍等で遅れていた多機能型協働施設および裁縫店３店舗の建設が完了しました。3-7歳の子ども向けの回避教育教材作成が、不発弾処理国家統制機構より許可され、今後子どもたちへの回避教育を実施します。不発弾被害者家族および最貧困層を対象とした裁縫（10名）、キノコ栽培（10名）、養蜂（20名）の職業訓練が修了し、専門家による技術面のフォローアップを月４回程度実施しました。キノコ栽培と販売を開始し、２月下旬～３月末で、キノコ小屋５棟の１棟当りの平均は、生産が約32kg、売上が約50万Kip（約5,800円）でした。蜂蜜の収穫は６月、裁縫の開始は田植え後の7月からの予定です。訓練参加者への家計簿とビジネスの研修、フォローアップにより、収支の記録・管理を指導しました。

1 回避教育（幼児への不発弾の意識調査）の様子。
2 多機能型共同施設の建設が完了。
3 スモールビジネスマネージメント研修の様子。

2 ［ カンボジア ］地雷撤去支援プロジェクト

事業の目的	地雷による脅威を削減することで、 地雷被害を受けたカンボジアの農村地域の社会経済復興に寄与する		
事業地域	カンボジア/北西部地域	受益者数(累計)	29,398名以上、7,442世帯
受益者カテゴリー	地雷原と地雷原周辺に住む村人	事業実施期間	2001年～継続中


1



2


3

地雷撤去支援により、安全になった土地を5,554名の人々に返還

カンボジアでは、2020年４月から2021年３月まで地雷除去する機械チームの運営費を、提携する地雷撤去団体MAGへ提供しました。バッタンバン州で、機械チームが操縦する”Digger-250”という機械を展開しました。９発の対人地雷を処理し、東京ドーム７個分に当たる324,833㎡の土地を安全にすることができました。この機械チームの活動によって、より効率的かつ迅速に地雷撤去を進めることが可能となり、5,554名に安全になった土地を返還することができました。

1 Digger-250 を操縦する MAG の機械チームのスタッフ。
2 地雷原に設置されている注意喚起の立て札。
3 地雷撤去をする機械 Digger-250 の整備をするスタッフ。

3 ［ カンボジア ］地雷埋設地域村落開発支援プロジェクト

事業の目的	地雷埋設地域の貧困削減。地雷被害者や、元子ども兵、小型武器の被害者を含む戦争被害者が、自立して生活できるようにサポートをするとともに、新たな地雷・不発弾事故を防止すること		
事業地域	カンボジア/バッタンバン州	受益者数(累計)	約 400 世帯
受益者カテゴリー	地雷埋設地域に住む貧困層の村人 地雷被害者などの紛争被害者など	事業実施期間	2006 年 10 月～継続中





家畜銀行や飼育、農産物の販売で、さらに収入アップに

ロカブッス村では、2016年から2021年３月までに家畜銀行から牛、ヤギ、豚、鶏、アヒルを77世帯(2020年度新規で31世帯) へ貸し出すことができました。合計約76万円の収入につながり、これは2019年度までに得ていた収入合計の2.46倍でした。また、村のモデルファームでは、貧困層４世帯が野菜や花など55種類の栽培や家畜飼育をして生活し、村のファーマーズ・マーケットで農産物の販売支援をしました。プレア・プット村では、18世帯(2020年度新規に８世帯へ貸出) がヤギの飼育によって合計約35万円の収入(2020年度中に13万6000円) を得て、また８世帯については養鶏で25,600円の収入(2020年度中に１万円) になりました。さらに、アクセスが悪いため学校へ通えない小学生のために教育支援を提供しました。サムロン・チェイ村では、これまでに牛銀行で６世帯へ雌牛を貸し出し、合計85,000円の収入につながっています。

1 豚飼育をするロカブッス村の村人の様子。
2 モデルファームでの瓜の栽培の様子。

4 ［ カンボジア ］地雷埋設地域の脆弱な障害者家族への生計向上支援プロジェクト

事業の目的	地雷埋設地域に住む 障害者の生計向上	事業地域	カンボジア/バッタンバン州
受益者数(累計)	カムリエン郡105世帯 (JICA草の根パートナー事業100世帯)	事業実施期間	2017年4月～2020年12月
受益者カテゴリー	地雷埋設地域に住む貧困層の地雷被害者などの紛争被害者を含む障害者家族		





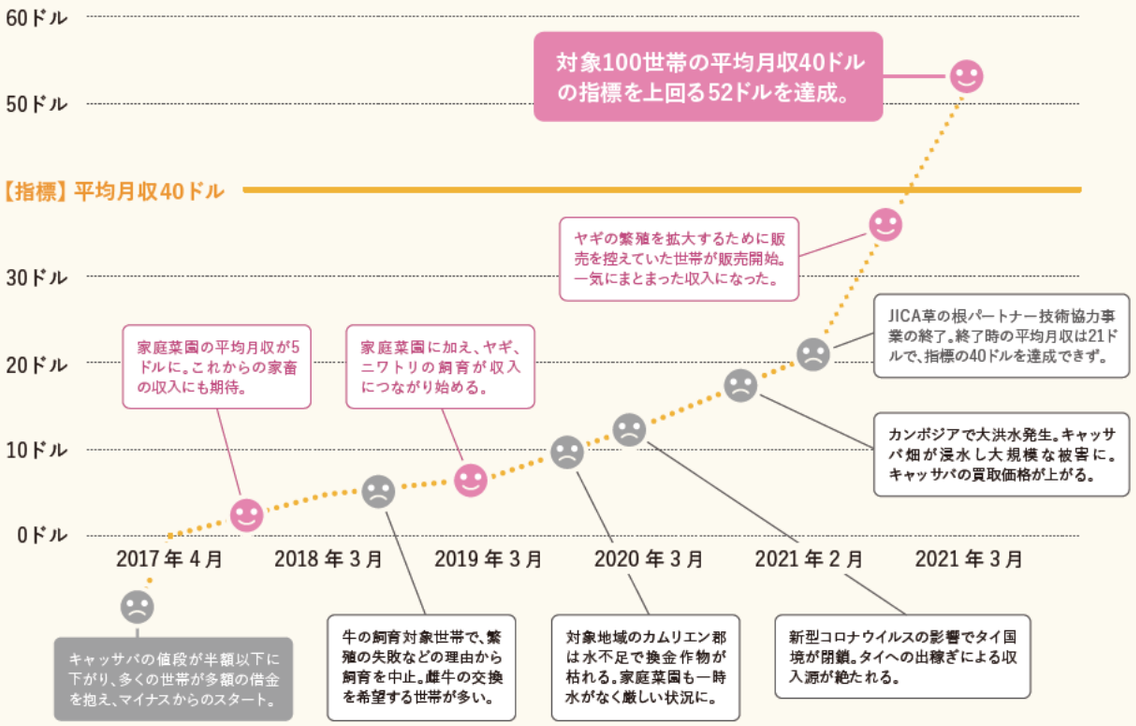


ラスト１年、コロナ禍でも目標とした平均月収を上回り、生計向上に貢献

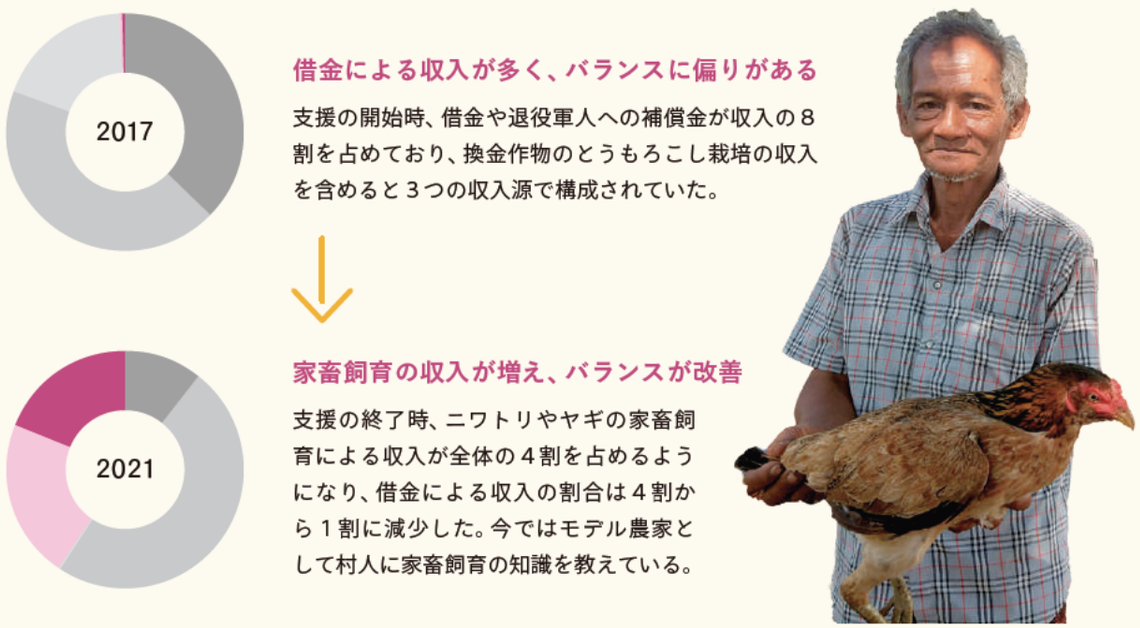
バッタンバン州カムリエン郡に住む障害者100世帯を対象にした生計向上支援は、事業最終年の活動を実施しました。グローバル経済のリスクとお金に関するワークショップを開催し、理解度テストで８割以上が内容を理解しています。毎月２種類の野菜栽培訓練と家畜銀行では、牛、やぎ、鶏、ハリナシミツバチの貸出と飼育訓練を継続しました。本プロジェクトの指標であった100世帯平均月収約4,000円に関して、2021年３月末までに平均月収5,247円となり、指標の131% を達成することができました。対象100世帯のうち2020年度には、野菜の収穫量をそれぞれ金額換算すると自家消費約250,000円、隣人への無料提供約95,000円、販売約165,000円となり、合計約510,000円でした。コロナ禍の中でも、収入と支出のバランスを取り、生計向上に貢献することができました。また、新型コロナウイルスの感染予防のため、当会の事業対象地域の289世帯へ手洗い用のオーガニック石鹸を配布しました。

1 生まれたばかりの子ヤギを確認する農業専門家と対象障害者世帯。
2 毎月２種類の野菜栽培訓練を受け、家庭菜園をするヴェン・チャオムさんの世帯。
3 農林水産省からの訪問者と地雷被害者のドル・キエン氏の家を訪問。

脆弱な障害者を対象にした100世帯の平均月収の推移と、事業の変遷



収入割合の変化 -メイ・ソーンさんの場合-



借金による収入が多く、バランスに偏りがある

支援の開始時、借金や退役軍人への補償金が収入の８割を占めており、換金作物のとうもろこし栽培の収入を含めると３つの収入源で構成されていた。

家畜飼育の収入が増え、バランスが改善

支援の終了時、ニワトリやヤギの家畜飼育による収入が全体の４割を占めるようになり、借金による収入の割合は４割から１割に減少した。今ではモデル農家として村人に家畜飼育の知識を教えている。

【 特集レポート 】JICA草の根パートナー技術協力事業

多様なつながりを取り戻す。
人間はひとりでは生きられない、人間だけでも生きられない。

カンボジア地雷埋設地域の脆弱な障害者家族への生計向上支援プロジェクトでは、2021年3月2日に4年弱のJICA草の根パートナー技術協力事業を終了しました。本事業は、カンボジア政府の貧困削減、障害者世帯（地雷被害者を含む）への支援、自然環境の保全といった政策に整合していた事業でした。生計を成り立たせていく方法を見失っていた村人たちのニーズに合致した事業であり、持続的な生活を成り立たせていく道筋を示し、生計を向上させる基盤を作ることができたと考えています。

2020年はコロナ禍をはじめ、水不足や洪水の発生など様々な外的ショックにみまわれ、これまでの主な収入源であったキャッサバなどの換金作物の栽培や隣国タイへの出稼ぎなど、大きな影響を受けました。しかし、本事業で実施した家畜飼育と野菜栽培による収入源の多様化によって、外的ショックの影響を受けても、全ての活動が影響を受けることは少なく、対象世帯に本事業の意義が認識されました。さらに対象世帯以外の周辺に住む村人が、自発的に家庭菜園を始めたり、ヤギの飼育を始めるケースも見られました。

また、本事業は家畜飼育や家庭菜園による経済的な効果をもたらすだけでなく、社会関係資本の改善がみられたケースも多くありました。これまで、出稼ぎや換金作物の栽培などにより家族がバラバラに生活していた世帯の場合、家族で協力して家畜飼育や家庭菜園を取り組むことで、一緒に生活できるようになりました。また、栽培した野菜を近所に無料で配布していた世帯は、お返しに果物や別のものを分けてもらえたり、これまで何もできないと思われていて話しもしなかった隣人との関係性が改善した事例もみられました。さらに、ニワトリの家畜飼育をしていた世帯は、訓練を受けて薬草の発酵液で雛の病気を予防・治療できることが分かると、飼育の成功とともに、近所にいる別の雛や犬なども治療してあげるようにもなりました。

くわえて、持続的な生計を営むために自然環境のバランスを整えることの重要性が認識されました。これまで、収入につながるまでに時間がかかり、効率的でないと思われていた現地の伝統文化や知恵、知識とともに資源を活用するアグロエコロジー*的農業によって、持続的でしなやかな生計を営むことができることを確認しました。現地の薬草10種類以上の発酵液を使った家畜飼育や、地元に生息していたハリナシミツバチの養蜂は、これまで役に立たないと思われていたものが、収入につながることを村人たちに示し、多様な自然環境が人々の暮らしを支えることを示しています。

※アグロエコロジー … 伝統知と科学知にもとづいた超学際的なアプローチであり、その目的は、生産性が高く、生物学的に多様で、かつレジリエントな小規模な農業システムを設計・管理すること。





テラ・ルネッサンスの支援を受けた元子ども兵の方々に布マスクの制作を依頼し、医療従事者や貧困層の方々へ無償で配布したときの様子。

\ アフリカ事業 - ウガンダ・活動トピック /

レジリエントな生き方に、希望を与えてもらった



13歳の時に反政府軍に誘拐され、強制結婚で産まれた子どもを抱えて帰還した時の収入は0だったリリー（仮名_写真右）。それから3年間の支援を経て、月収約6,000円（公務員給与の約8割）を稼げるようになり自立。彼女は、その後の約10年間で生計を向上・維持し3人の子どもを中学校まで通わせ続けてきました。しかし、コロナ禍で仕事が禁止され、再び収入が0に…。さらにHIVエイズに感染していることが判明しました。絶望的な状況に陥ってしまった彼女でしたが、夢は持ち続けていました。それは「病気で自分の命が尽きる前に、子どもたちに家を建てて残すこと」。コロナ対策支援として提供したマスク作りの仕事に休む間も惜しみ没頭、そして今年、ついに家の建設に着手しました。コロナ禍で再び困難に直面した彼女のレジリエントな生き方は、コロナ禍で支援を続ける私たちスタッフにも希望を与えてくれました。

国際協力事業 アフリカ

2020→2021 AFRICA REGION PROJECT UGANDA CONGO BURUNDI

ウガンダでは、元子ども兵や南スーダン難民、最貧困層住民へ自立に向けての職業訓練や、その後の収入向上支援を実施しました。コンゴ民主共和国（以後、コンゴと表記）では、紛争被害にあった女性や最貧困層、国内避難民に対して、養蜂や家畜飼育の技術訓練、及び、その後の生計向上支援を行うことができました。ブルンジでは、女性や社会的弱者を対象に養豚や収入向上のための支援、また、コミュニティ間の相互扶助活動を促進し、関係性を構築するための支援を行うことができました。なお、上記3カ国において新型コロナウィルスの感染拡大を予防するための啓発活動や衛生用品の配布を行うとともに、コロナ禍で生活が困窮した脆弱層への生計支援や就業の機会を提供する活動を行うことができました。



理事長
海外事業部長
小川 真吾

課題と展望

感染抑制と生計向上を両立させた支援を

アフリカ3カ国においては、医療体制が脆弱なため、新型コロナウイルスの感染拡大を抑制していくことが不可欠であり、引き続き感染予防のための活動を継続していく必要があります。一方、ウガンダやコンゴにおいては、政府が厳しいロックダウンや、社会経済活動の制限を課しており、社会的に脆弱な人々の生活がさらに困窮し、命の危機に直面しています。当会の職業訓練を修了した人々も例外ではなく、今後、対象者が最低限の衣食住を満たし、生計を向上・維持していけるように、コロナ禍の状況と個別のニーズにフレキシブルに対応しながらフォローアップ支援を強化していくことが大きな課題です。また、コロナ禍で女性に対する暴力が増加しており、被害女性への直接的支援とともに、こうした暴力を予防するための包括的な支援が必要とされています。

1 ［ウガンダ：南スーダン］難民居住区及びホストコミュニティにおける自立支援プロジェクト

事業の目的	難民居住区の南スーダン難民及びホストコミュニティの最貧困層が、職業訓練により必要な能力を身につけ経済的に自立すること		
事業地域	ウガンダ / アジュマニ県 南スーダン難民居住区	受益者数	南スーダン難民 111 名 ホストコミュニティ住民 86 名
受益者カテゴリー	南スーダン難民、 ホストコミュニティ最貧困層住民	事業実施期間	2018 年 2 月～継続中



1



2



3

実践的訓練とともに、生活面をフォローアップ

南スーダン難民と難民を受け入れるホストコミュニティから第３期生を受け入れ、難民居住区で89名の訓練を行いました。洋裁、編物、木工大工、レンガ積み工、養豚、溶接の６分野に分かれて職業訓練を受け、それぞれ技術を磨きました。開業時に必要となる貯蓄活動の訓練やビジネススキルも学びました。また訓練に集中できるよう、訓練施設での給食の提供および生活クーポンの支給等も行いました。さらに訓練の一環として、難民居住区内の住民の住宅の建設を行うなど、実践的な訓練と同時にコミュニティとの関係性向上や開業の準備も進めました。またUNHCRからマスク制作の依頼を受けている洋裁クラスの受益者への助言など、１期生、２期生の収入向上のフォローアップを行いました。

1 養豚クラスで子豚に餌を与える様子。
2 レンガ積み工クラスによる住居建設の様子。
3 溶接クラスでの実技訓練の様子。

2 ［ウガンダ］元子ども兵社会復帰支援プロジェクト

事業の目的	元子ども兵が社会復帰するために必要な能力を身につけ、経済的に自立するとともに地域住民との関係を改善しながらコミュニティで安心して暮らせるようになること		
事業地域	ウガンダ / 北部地域	受益者数(累計)	1,711名 (内、元子ども兵は227名)
受益者カテゴリー	元子ども兵及びその家族、 最貧困層住民	事業実施期間	2005 年 5 月～継続中



1

コロナ禍の訓練停止期間を経ても、あきらめず技術を習得

71名（元子ども兵34名と最貧困層37名）に対して自立支援を実施しました。そのうち職業訓練中の41名は、コロナ禍で約半年間の訓練停止期間があったものの、2020年10月に訓練再開が許可され、現時点では実際に収入を得るために必要な洋裁や服飾デザイン、木工大工の技術を習得。2021年8月には、開業支援を開始する予定です。

また、すでに開業している30名は、コロナ禍で洋裁店や木工大工店の営業が禁止され、収入が激減するなど甚大な影響を受けましたが、コロナ禍までに月平均6,000円以上の収入を得ながら、一定の貯蓄を持っていたこともあり、半数以上はレジリエントに生計を維持することができました。他方、コロナ禍の影響が長引き、生活が困窮している卒業生も出てきており、今後それぞれの状況に応じてフォローアップを強化していく必要があります。

1 ロックダウンが解除され、施設に戻ってきた元子ども兵たち。

3 ［ウガンダ］ウガンダにおける新型コロナウイルス対策支援事業

事業の目的	新型コロナウイルスの感染を予防するとともに、 最も脆弱な人々の社会経済的ダメージを最小限に抑えること		
事業地域	ウガンダ／北部地域	受益者数(累計)	約65,000名
受益者カテゴリー	難民、元子ども兵、最脆弱層、 医療従事者、地域住民	事業実施期間	2020年4月～2021年3月



1


2

約86,000人以上の人々の感染予防対策を促進

ウガンダ北部の最貧困層や元子ども兵、南スーダン難民に対して、感染予防のための啓発ポスターやチラシを7万枚以上配布・掲示するとともに、石鹸やマスクの配布、700カ所に簡易の手洗い設備設置などを行うことができました。それにより約86,000人以上の人々の感染予防対策を促進することができました。また、新型コロナウイルス感染者を収容する病院(グル病院)において医療器具やマスクを供与するとともに、隔離施設に収容されている人々や、コロナ禍で生活が困窮する難民・最貧困層に対して食料や生活物資の配布を行うことができました。なお、ロックダウンの影響で仕事を失った人々に対して、6万枚以上のマスク作りの仕事を提供するなど、コロナ禍において脆弱層の暮らしを守る活動を行うことができました。



3

1 コミュニティの診療所にフェイスシールドや非接触型体温計などを供与。
2 COVID-19感染者を収容するグル病院へ患者容態管理モニターなどの医療機材を提供。
3 ロックダウンで仕事を失った脆弱層が製作したマスク。

4 ［コンゴ］最脆弱層世帯の養蜂ビジネス起業支援プロジェクト

事業の目的	紛争下で暮らす最脆弱層が養蜂技術を習得し、 養蜂ビジネスを起業することで、収入源を確保すること		
事業地域	コンゴ/南キブ州、 カヘレ行政区、カロンゲ区域	受益者数(累計)	最脆弱層50名、 及びその家族約250名
受益者カテゴリー	最脆弱層（主に寡婦、 国内避難民、最貧困層）	事業実施期間	2020年4月～2021年3月


1

実地訓練を行った、全世帯での採蜜が可能に

紛争の影響を受けた最脆弱層世帯に対して、養蜂の実地訓練を継続して行ったところ、全世帯で養蜂箱に巣が根付き、採蜜を行うことができました。一方、コロナ禍の影響で予定していた一次加工訓練の資機材が隣国のブルンジから運搬できない状況が続き、今年度は一部の採蜜を行なった後に、巣箱の数を増やして、養蜂場の整備やコロニー（巣）を成長させるための実地訓練を重点的に行いました。それにより、巣箱の内検や害虫の駆除、養蜂場の整備を各自で行えるようになっています。コロナ禍の規制解除後に運搬・搬入した一次加工機材の使用・メンテナンス方法の実地訓練を、次年度から開始し、商品化を進めていく予定です。


2


3

1 採蜜の様子。コロナ禍の影響で加工機材の搬入が遅延したがサンプルを採蜜。
2 養蜂箱の内検の様子。昨年に比べ多くの巣箱で巣が根付き、成長している。
3 コロナ禍の規制で運搬が遅れていた採蜜後の一次加工機材搬入の様子。

5 ［ コンゴ ］子どもの徴兵予防プロジェクト

事業の目的	紛争下で暮らす元子ども兵及び孤児が就学し、その受け入れ家族が収入源を確保することで、子どもの徴兵を予防すること		
事業地域	コンゴ/南キブ州、カヘレ行政区、カロンゲ区域	事業実施期間	2020 年 4 月～ 2021 年 3 月
受益者数(累計)	①元子ども兵及び孤児250名、②及び、その受け入れ家族100世帯（約300名）		
受益者カテゴリー	元子ども兵・孤児及び、その受け入れ世帯		


1

コロナ禍の影響を受けながらも家畜を飼育、子どもたちは学校再開へ

コロナ禍の規制で４月から８月までは小学校が閉鎖されましたが、高学年の学校再開後、80名の子どもたちに就学の機会を与えることができました。また、10月には低学年の教育が再開され、全ての対象者250名の子どもたちに通学カバン、学用品、制服を供与することができました。同時に、コロナ禍の影響を受けながらも、子どもたちの受け入れ家族50世帯に対して、家畜の提供や飼育技術の訓練を行うことができました。それにより、昨年度までに支援してきた50世帯と合わせて、全100世帯の人々がヤギ２頭、モルモット５匹の飼育を開始。そのうち80世帯以上で繁殖に成功し、さらに30世帯は繁殖後の家畜を販売し、その利益により子どもの衣食住や学用品などを購入することができています。

1 ヤギとモルモットの飼育方法の研修を受ける受益者たち。

6 ［ コンゴ ］紛争の影響を受けた最脆弱層女性に対するレジリエンス向上支援プロジェクト

事業の目的	対象者が生計を維持・向上するとともに、ソーシャルキャピタル（社会関係資本）を増大しリスクや困難に対するレジリエンスを向上すること		
事業地域	コンゴ/中央カサイ州、カナンガ市	事業実施期間	2020年 4 月～ 2021年 3 月
受益者数(累計)	直接受益者：280 名、間接受益者：直接受益者の家族 1,953名		
受益者カテゴリー	紛争被害女性（国内避難民、寡婦、孤児、最貧困層女性）		


1


2


3

コロナ禍に欠かせない石鹸や、地元で愛されるジュースで生計を維持

コロナ禍の規制により、人が集まる活動を政府から禁止され、４月から洋裁訓練が約４カ月間実施できない状況に陥りました。しかしその後、訓練が再開されると30名の女性たちが無事技術を習得し、洋裁店舗を開業することができました。石鹸作りに取り組む４グループ（対象者100名）は、エッセンシャルワーカーとして石鹸の製造・販売を続け、住民の感染予防に不可欠な商品を提供する一方で、新たな香り付き石鹸を開発し、収益率を改善することができました。また、パイナップルジュース作りの２グループ（対象者100名）は、地元の産品を原料として、ジュースを製造・販売していたため、他の清涼飲料水などの流通が滞る中、彼女たちの製造するジュースは地元の人々に届けられ、売上とともに対象者の生計を維持することができました。

1 コロナ禍で住民に不可欠な石鹸作りに取り組む様子。
2 一時期、訓練が中断したものの、洋裁技術を習得し、修了証書を受ける女性。
3 コロナ禍で流通が滞る中、受益者が製造したジュースを愛飲する地元の人々。

7 ［ コンゴ ］ コンゴにおける新型コロナウイルス対策支援事業

事業の目的	新型コロナウイルスの感染を予防するとともに、 最も脆弱な人々の社会経済的ダメージを最小限に抑えること		
事業地域	コンゴ民主共和国、南キブ州、 中央カサイ州	受益者数（累計）	約65,000名
受益者カテゴリー	難民・国内避難民、紛争被害女性、 最貧困層、地域住民、洪水被害者	事業実施期間	2020年4月～2021年3月



1


2

人の密集する190カ所で、感染予防対策を実施

感染予防のための手洗いタンクを市場や刑務所など、人が密集する場所190カ所に設置し、感染予防のための啓発ポスターの掲示、石鹸などの衛生用品を配布することができました。それにより、約22,000人が石鹸で手洗いできる環境を整備することができました。また、コロナ禍で生活が困窮した高齢者や最貧困層、国内避難民200世帯（約1,500名）に対して、食料や衛生用品を配布することができました。社会経済活動が制限される中、70,000個の石鹸、11,000枚のマスクを製造するための仕事を提供し、それらを緊急支援物資として配布することができました。また、南キブ州の洪水により住む場所を失った200世帯（約1,500名）名に対して、約3カ月の食料を提供することができました。

1 南キブ州の市場の入り口に設置した手洗い用タンク。　2 高齢者と最貧困層へ配布するマスク作りの様子。

8 ［ ブルンジ ］ 農村部コミュニティにおける社会的弱者（EVIs）世帯の自立と自治支援プロジェクト

事業の目的	社会的弱者が農村コミュニティ内で、周囲とのつながりを強化し、 基本的ニーズを満たした生活ができる環境を整えること		
事業地域	ブルンジ/ムランビア県、 キガンダ郡	受益者数	212世帯（約920名）
受益者カテゴリー	社会的弱者（シングルマザー、 ストリートチルドレン、最貧困層住民）	事業実施期間	2018年4月～2022年3月


1

生活支援とともに、コミュニティの関係性を強化

対象地域において、失業中の若者で構成される協同組合を対象とした養豚の技術訓練、これまでに養蜂・洋裁・ヘアドレッシング・養豚の技術を学んだ対象者の収入向上支援を行いました。なかには、支援開始前に比べて約2.7倍の収入を得られている対象者もいます。また、昨年から継続して生活支援・状況に応じた個別カウンセリングも行ったほか、対象者によるコミュニティワークも促進し、対象者間・家族やコミュニティの人々との関係性を強化できました。くわえて、パートナーの自治体とともにシングルマザーを対象としたリスク管理の研修を行ったほか、建設した施設を引き渡したことにより、当会の事業終了後も自治体が郡内の人々へ公共サービスを提供し続けることができる一歩となりました。



2

1 コミュニティワークの様子。　2 過去にヘアドレッシング技術を学んで自分の美容室を開業した対象者。

9 ［ブルンジ］帰還民女性・国内避難民女性の社会経済的エンパワメントプロジェクト

事業の目的	帰還民女性と国内避難民女性が尊厳を取り戻し、恒久的・持続的な解決策を得る		
事業地域	ブルンジ / ブジュンブラルーラル県	受益者数(累計)	1,000名
受益者カテゴリー	帰還民女性、国内避難民女性、ホストコミュニティ住民	事業実施期間	2020年10月～2021年2月







組織化することでグループ・個人の収入向上活動を実施

UN Womenと協働して、タンザニアから帰還したブルンジ難民（帰還民）の女性、自然災害などにより移動した国内避難民（IDPs）の女性、そのホストコミュニティ*を対象に、VSLA（村落貯蓄融資組合）を組織化し、VSLAの運営・リーダーシップに関する訓練、少額の資本金の支援を行いました。それにより、対象者がVSLAの運営に必要な技術を身につけ、グループ・個人での収入向上活動を実施できるようになりました。

くわえて、コミュニティワーク（土砂災害予防のための側溝の整備など）の実施、それに必要な鍬（くわ）などの用具の供与を通して、災害予防に加え、対象者間・コミュニティとの関係性を強化することができました。事業終了後も、継続してVSLAの運営やコミュニティワークを行っています。

1 VSLAの研修に参加する対象者。　2 支援対象者とVSLAの訓練講師。
3 グループで共同貯蓄し、低金利でのお金の貸し借りを行う村落貯蓄融資組合活動の様子。
※ ホストコミュニティ … プロジェクト実施以前から居住している人々の地域。

10 ［ブルンジ］ブルンジにおける新型コロナウイルス対策支援事業

事業の目的	新型コロナウイルスの感染を予防するとともに、最脆弱層の人々の社会経済的ダメージを最小限に抑えること		
事業地域	ブルンジ / ムランピア県	受益者数(累計)	約67,500名
受益者カテゴリー	最貧困層、地域住民	事業実施期間	2020年4月～2021年3月



感染対策とコロナ禍での就業機会を提供

支援事業を行っているムランピア県において、新型コロナウイルスの感染予防を目的に、学校やマーケットなど人が多く集まる場所に対して、280カ所に453の手洗い器を設置、約3,600個の石鹸の配布を行ったほか、医療従事者への新型コロナウイルス対策の研修の実施支援、新型コロナウイルス感染症の患者を受け入れる病院へマットレスを寄贈することで、県内での感染拡大の予防に寄与しました。加えて、最脆弱層への生計支援活動として、過去に当会が実施した技術訓練により洋裁技術を学んだ対象者に、1,000個の布マスク製作を依頼。コロナ禍でも収入が得られるよう就業機会を提供し、そのほか生計支援を通して、最脆弱層のコロナ禍による経済的ダメージが軽減されました。





1 学校への手洗い設備支援の様子。　2 病院へのマットレス寄贈の様子。
3 マスクを製作した洋裁技術を学んだ支援対象者。

新型コロナウイルス対策
緊急支援プロジェクト

日本の皆さまからのご支援によって、
命と暮らしを守ることできたアフリカの人々

164,778人

76,500人
布マスクの製造・配布

74,628個
石鹸の配布

1,293カ所
手洗い設備の設置

4,500人
食糧・生活物資の配布

74,500枚
手洗いチラシ
ポスターの配布

89,800人
左記を含め
街宣車での啓発

コロナ禍で、命と暮らしを守る

私たちが活動するアフリカでは、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、政府がロックダウンを行うなどして多くの脆弱な人々が仕事を失い、最低限の生活すらできない状況に陥っています。私たちは、2020年3月にアフリカ3カ国で緊急支援を開始し、まずは、医療体制が脆弱な上に衛生環境が十分に整っていない現地の状況を鑑みて、感染予防のための啓発活動や衛生用品の配布などを行ってきました。これまで難民居住区や人が密集する市場や刑務所など1,293カ所に手洗い設備を設置し、74,628個の石鹸を難民や国内避難民、貧困層に配布することができています。また、ウガンダでは感染者の急増に伴い、COVID19患者を収容している病院の医療崩壊、院内感染が危惧される中、必要な医療器具・機材を提供するとともに医療従事者へのマスク配布、院内への啓発ポスターの掲示などを行ってきました。

一方、ウガンダやコンゴでは、政府がロックダウンや厳しい社会経済活動の制限を行ってきた影響で、脆弱層の生活は困窮し、移動手段も制限される中、乳幼児や妊産婦の人々が命の危機に直面しています。これらを鑑みて、南スーダン難民や、コンゴの国内避難民、最貧困層、洪水被災者を対象に食料や生活物資の緊急支援を行い、約4,500名の方々へ数カ月間分の生活支援を行うことができました。また、国連やNGOの緊急支援が減少し、政府からの補償もない中で、仕事や収入を失った人々に対して、マスクや石鹸など、コロナ禍で必要とされているモノを製造する仕事を提供してきました。これまでに76,500枚の布製マスクが製造され、それらはエッセンシャルワーカーや貧困層の方などに配布しています。なお、コロナ禍では、経済的な問題とともに、DVや女性に対する暴力が深刻化するなどの社会問題も浮き彫りになっており、被害女性に対する保護（住居や生活物資の提供）や、それぞれの状況に応じたかたちで持続的に生計を維持できるよう生活再建の支援を行ってきました。

今後、感染拡大を抑制するための支援とともに、コロナ禍で生活の基盤が奪われてしまった最脆弱層への中長期的な生活支援が急務です。特に、一時的に食料や生活物資を提供する緊急支援だけでは現地のニーズを満たすことはできず、中長期的に脆弱な人々が生計を維持するための支援がより重要になってきます。COVID19だけでなくマラリアなどの他の感染症や、紛争、自然災害など様々なリスクに直面しているアフリカの人々の暮らしを守り、一人でも多くの命が犠牲にならないよう、今後も新型コロナ対策支援事業を継続していきます。

SAVE Life, SAVE LIFE





テラ・ルネッサンスをご支援いただく会員様へのプレゼントとして、
ウガンダの元子ども兵が制作したマスクを大槌刺し子の刺し子さんが検品しました。

＼大槌復興刺し子プロジェクト・活動トピック／

震災から10年。沢山のご支援に支えられ感謝しかありません。



2021年3月11日で、東日本大震災から10年を迎えました。震災により避難生活を余儀なくされ、途方に暮れていた人たちに、「少しでも何かできることがあれば」と立ち上がった5名のボランティアさんにより、2011年6月、大槌町の避難所から、大槌復興刺し子プロジェクトは始められました。震災から10年が経った今も、約30名の刺し子さんが活動しています。ここまで活動を続けられるとは思っていませんでしたが、この10年間、たくさんの方が関わってくださり、大槌復興刺し子プロジェクトのことを忘れずにいてくださったおかげだと思います。本当に感謝しかありません。これからも立ち止まらずに進んでいこうと思います。

（文：大槌復興刺し子プロジェクト 佐々木加奈子）

大槌復興刺し子プロジェクト

2020→2021 Otsuchi Sashiko Project JAPAN

2021年3月で、東日本大震災から10年が経ちました。同年6月から、大槌町の避難所の一角で始まった「大槌復興刺し子プロジェクト」も10年を迎えようとしています。これまでたくさんの方々のご支援のおかげで、10年間続けることができました。2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響もありましたが、事務所では換気、時間割制の導入、手洗い、手指消毒などの感染防止に努めるとともに、刺し子さんの様子に配慮しながら、毎週2回の刺し子会を開催しました。今年、活動に参加した刺し子さんは、41名。刺し子事業を通じた収入は、約1,180万円。刺し子さんには工賃として、約230万円をお支払いすることができました。



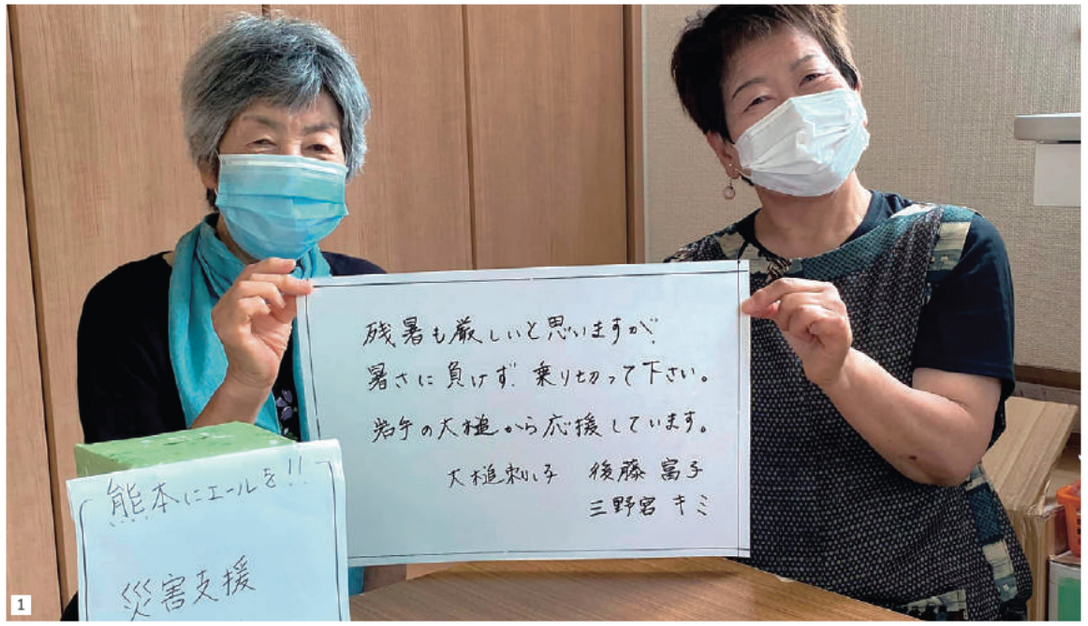
［日本 岩手事務所］
理事・大槌刺し子事業部長
政策提言推進室長
吉田 真衣

課題と展望　コロナ禍の苦境の中でも、新しいチャレンジを

2020年度、大槌復興刺し子プロジェクトは次の10年に向けた契機とすべく発進しました。しかしながら、イベントや催事への出展も客足が見込めないことから出展を見合わせるなどの判断をせざるを得ない状況もありました。そのような中でも、マスクの生産を行ったり、大槌刺し子初めてのセール企画「9周年記念セール」、そして、年末年始には「福袋」の販売を企画するなど、スタッフ、刺し子さんと一丸となって、プロジェクトを推進しました。依然として、新型コロナウイルスの収束の見通しが立たない状況が続き、事業にとっては厳しい局面ともいえますが、新しいことにもどんどんチャレンジしながら、この局面を乗り越え、みんなで新しい大槌刺し子をつくっていきたいと思います。

1 大槌復興刺し子プロジェクト

事業の目的	東日本大震災により、甚大な被害を受けた岩手県大槌町にて、東北の伝統技術である「刺し子」商品の制作、販売を通じて、継続的な地元人材の雇用と、作り手の女性たちの収入・生き甲斐を創出する。また、プロジェクトを通じて、復興、地域創生などの町の課題解決に寄与する		
事業地域	日本 / 岩手県	受益者数(累計)	209名
受益者カテゴリー	東日本大震災の被災地域の女性	事業実施期間	2011年 6 月～2021年 3 月



1

「熊本豪雨」被災者に、支援金を寄付

2020年７月、熊本県を中心に発生した「熊本豪雨」に際し、甚大な被害を受けた熊本県人吉市におけるボランティア活動を支援するために、期間限定で対象商品の売り上げ50%分を支援金として寄付するキャンペーンを実施しました。おかげさまで多くの方にお買い求めいただき、商品の売り上げにくわえ、刺し子さんや、横浜で大槌刺し子商品の販売を行うカフェ「陽のあたる道」さまの募金などを合わせた198,247円を「熊本県人吉市・復興支援プロジェクトチーム」に寄付することができました。ご協力いただきました皆さま、ありがとうございました。支援金は災害ごみの撤去や運搬を行うためのトラック無料貸し出しプロジェクトなどの災害支援活動に使用されました。一日も早い復興を、大槌復興刺し子プロジェクト一同、心よりお祈り申し上げます。

1「熊本豪雨」における支援のため、募金の呼びかけと応援メッセージを送る刺し子さんの様子。









刺し子ならではのマスクで元気を

日本中でマスク不足が深刻になったことを受けて、「少しでもお役に立てれば」という気持ちでマスクの生産を始めました。当初は、仕事場でも着用できるようにと、白と生成りのシンプルなマスクを製作。普段は、刺し子のふきんに使用する晒しを使い、肌にも優しい「晒しでつくった布マスク」を発売しました。企業さまや個人の方からご注文をいただき、これまでに約1,500枚を販売しました。その後、大槌刺し子らしい麻の葉柄のマスクも販売しました。

また、アフリカ諸国でも新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される中、テラ・ルネッサンスが活動するウガンダやコンゴ民主共和国でもマスクの着用が義務づけられました。そこで、「晒しでつくった布マスク」200枚を、特定非営利活動法人RITA-Congoさまを通じて、当会の活動地域、コンゴ民主共和国南キブ州ブカブにあり、ノーベル平和賞受賞者のムクウェゲ医師が運営するパンジ病院に寄贈しました。

活動の詳細はこちら ▶▶▶ 大槌刺し子 検索 https://sashiko.jp/



第４回ジャパンSDGsアワード副本部長（外務大臣）賞を受賞。
SDGs達成に資する優れた取り組みを行う団体として京都初、国際協力NPOでは３例目の快挙。

＼ 啓発事業・活動トピック ／

NPO・NGOの組織運営ノウハウを学べるオンラインセミナー「テラ・ルネッサンス アカデミア」、始動。

TERRA RENAISSANCE ACADEMIA SINCE 2020



2020年度から新しく始まったオンラインセミナー「テラ・ルネッサンス アカデミア」。創設以来、たくさんのチャレンジと学びを通して培ったファンドレイジングや人財育成など組織運営のノウハウを共有し、NPO・NGOの活動を応援するとともに「平和の担い手」を増やすことを目的に開催しました。2020年度は全５回実施、合計127人の方に参加いただきました。「組織のファンドレイジング強化の流れがわかりやすかった」「デザインの専門家がいないため、いつも悩んでいた。いただいた資料を含め、団体内でその重要性を訴えるきっかけをいただけて感謝している」など、それぞれの活動の次のヒントになるような機会を提供することができました。

啓発事業

2020→2021 AWARENESS RAISING PROJECT JAPAN

海外事業地での国際協力、政策提言とともにテラ・ルネッサンスの活動の柱になっているのが、国内で取り組む「啓発活動」です。

2020年度は、引き続き啓発的な視点に立脚したファンドレイジングを展開する中で、特に、テラ・ルネッサンスが有する関係資本（ステークホルダー）への注力を意識した活動を推進しました。コロナ禍の影響を受け、当初の計画と異なった対応が求められる状況ではありましたが、社会変革の担い手を増やしたいという想いのもと、オンラインを活用した講演やイベントをはじめ、めぐるプロジェクトにおける回収系の支援や、寄付や会員など、活動参画のためのさまざまな方法を広く呼びかけてきました。



［日本 京都事務局］
事務局次長・啓発事業部長
ブランディングデザイン室長
小田 起世和

課題と展望　柔軟な発想とチャレンジで、困難な状況を打開する

2020年度、国内の啓発事業でもコロナ禍の大きな影響を受けました。講演の中止や延期、社会の経済的な変化から寄付の停止などもありました。一方、このような状況でもいくつかの希望を感じたことも事実です。講演の場合、オンラインを活用したイベントやセミナーを企画・開催したことで、対面を必要としない講演参加の機会を提供することができました。また寄付の場合、新型コロナ対策緊急支援プロジェクトに対する募金の呼びかけに対して、900名以上の方から2,446万円ものご寄付をいただきました。「医療体制の脆弱なアフリカで迅速に活動してもらえて嬉しい」「こんなときだからこそ私たち支援者を信じてください」と、このような応援の言葉にどれだけ励まされたかわかりません。

これらのことから、ご支援いただく皆様の力を信じ、困難な状況を打開していくための柔軟な発想とチャレンジを続けていきたいと考えています。

1 JICA NGO等提案型プログラム「京都発！SDGs国際協力アクター連携強化プログラム」

事業の目的	京都を中心とした地域で、SDGs達成に向け取り組みを行うアクターのSDGsに関する理解向上。SDGs国際協力アクター同士の情報交換、人材交流、協働事業を行うことで各アクターの組織強化を通して、SDGs達成に寄与する		
事業地域	日本国内	事業実施期間	2019年12月～2021年11月
指　標	1）研修前後のヒアリング・アンケート　2）研修を介して実施される協働事業		
実　績	1）コロナ禍において、集合型の研修からオンラインでのイベントを通じたネットワーク構築、強化に切り替えたため統計なし　2）1事案の実施		







コロナ禍でプログラムを再考し、オンラインでつながるネットワークへ

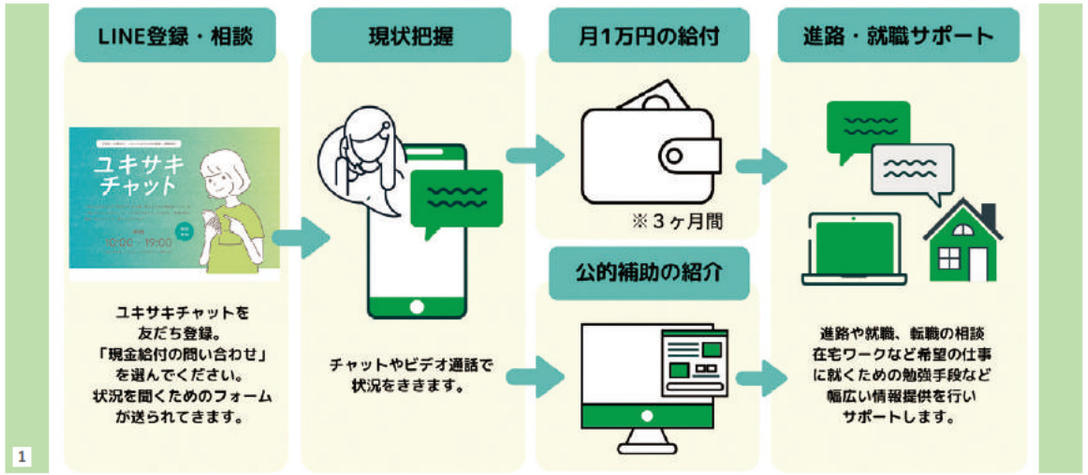
当初は研修を中心としたプログラムでしたが、新型コロナウイルスの影響により、委託元のJICAと活動内容を再考し、対面を必要としない企業や団体、教育機関とのSDGs推進のための個別相談対応やオンラインセミナーを実施しました。

2021年3月時点において、京都SDGsラボへの登録は26団体・28名となり、毎月1回のオンライン交流会や協働をつくることを目的にしたマッチングイベントを実施しています。

1 SDGs連携相談員派遣の様子、SDGsを組織内で取り入れていくための助言を行った。
2 第1回マッチングイベントの様子、キルギスで活動を行う団体をオンラインでつなぎ商品紹介と活動紹介を実施した。
3 毎月第三木曜日に実施しているオンライン交流会の様子。

2 コロナ禍により就労環境の悪化に見舞われている経済的・社会的問題等を抱えた若者に対する就労支援プロジェクト

事業の目的	コロナ禍における国内の子どもの就労支援により、孤立・貧困に起因した格差拡大を予防する。特定非営利活動法人D×Pとの業務提携により、双方の知見共有から事業成長を促進しコロナ後の平和で公正な社会の実現へ貢献する		
事業地域	日本国内	事業実施期間	2020年11月～2021年3月
受益者カテゴリー	コロナ禍により就労環境の悪化に見舞われている経済的・社会的問題等を抱えた日本国内の若者		
受益者数(累計)	26人		



コロナ禍の影響を受けた国内の若者を支援

新型コロナウイルスによる影響はアフリカやアジアだけでなく、日本において、特に経済的・社会的問題等を抱えた若者にまで広がっていました。私たちは、これまでも国内における災害支援を行なってきたことから、そのような状況にある若者に対する支援が必要だと考えました。特定非営利活動法人D×Pが行う、「ユキサキチャット」に対する支援を通じて、コロナ禍により就労環境の悪化に見舞われている若者に対する就労支援を実施。食糧支援や現金給付に加えて、働く選択肢を増やすためにパソコンを配布するなどの支援を行いました。





1 ユキサキチャットによる支援活動の全体の流れ。
2 ユキチャットに寄せられた様々な相談にチャットアプリを通して対応する様子。
3 専用の段ボールに食糧支援のための物資を封入するD×Pのスタッフ。

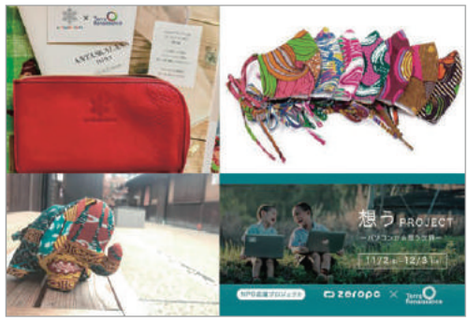




コロナ禍によって講演が減少、オンラインの活用などで試行錯誤

新型コロナウイルスの感染拡大により、2020年度の前半は対面の講演会の20件以上の中止・延期、そして新規依頼の停止が続きました。講演収入の減少、さらには啓発機会の減少が見込まれる中、状況を打開したのはオンライン講演でした。高校で全校生徒が教室で自分の席に座りながら参加するオンライン配信。参加者は会場に集まり、講師は自宅から接続するオンライン配信。マスクをつけ、距離を取ったうえでの通常講演。様々なチャレンジを主催者様とともに取り組みました。結果として、今まで会場で講演に参加出来なかった方々にも伝える機会が増え、2020年度は117回 / 8,001人の方への啓発を実施することができました。



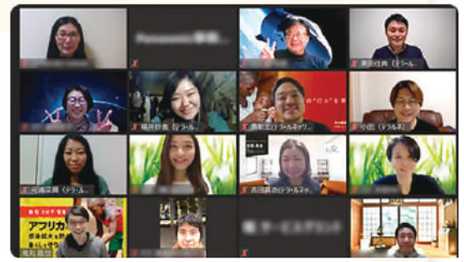


寄付つき商品・サービスによる社会課題の解決と、新しい暮らしの「提案」へ

一人ひとりがそれぞれ支援しやすい方法を選べるよう、様々な企業さまと協力し、商品やサービスの収益の一部が寄付になる仕組み（寄付つき商品・サービス）を作ってきました。2020年度は、ホームページに特設ページを開設し、広報に注力。私たちは、この「寄付つき商品・サービス」が社会課題の解決に「気軽」に参加できる機会の一つになってほしいと考えています。さらに、『人と地域、社会、そして地球環境のことを考慮したモノ・サービス』を通じた、新しい暮らしの「提案」という想いも込められています。「気軽」に参加できる新しい寄付のカタチとして、こうした商品・サービスを皆さまに提供できるよう、今後も様々な企業さまと協力していきます。

掲載写真の他にも素敵な商品・サービスがございますので、ぜひホームページをご覧ください。

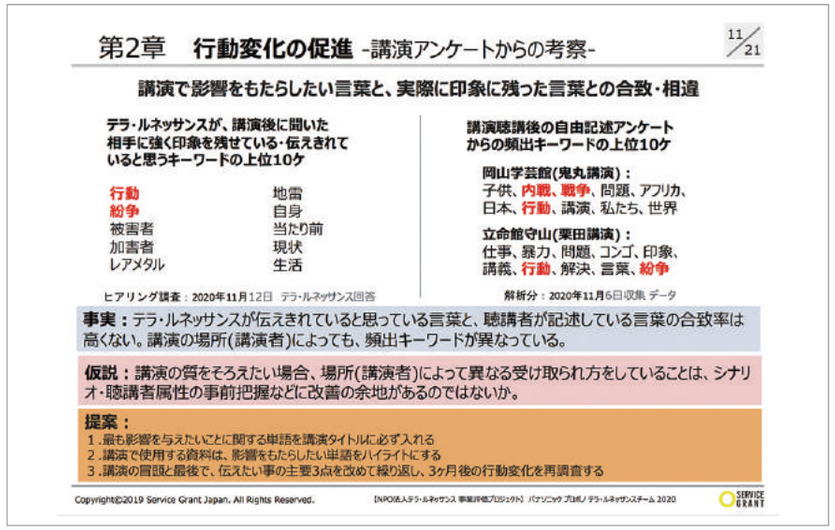
＼啓発事業・活動トピック／



啓発（講演）の影響を調査、次の10年にむけ平和の種をまく

仕事のスキルや経験を活かしてNPOを支援する「Panasonic NPO/NGOサポートプロボノプログラム（コーディネート：認定NPO法人サービスグラント）」を通じ、8名のプロボノ*とともに、啓発活動によって、社会にどのような影響をもたらしているかを評価するプロジェクトを実施しました。過去の講演参加者数やアンケート内容の分析だけでなく、今後の評価のための新しいアンケートの提案や潜在支援者へのアプローチなど、啓発活動を加速させる大切な報告・提案をいただきました。さらに、講演による効果とそのデータの分析方法の教示、関係者へのヒアリングをもとに、講演は平和活動に貢献する人財の育成につながっていることの報告や、支援者を増やすために支援者同士のネットワーク化の必要性についても提案をいただきました。これらの提案によって、今まで可視化することが難しかった啓発活動の評価の意義と方法を確認することができました。2020年8月から12月までの約5カ月間、プロボノの皆様が丁寧に準備してくださったこの成果を次の10年に繋げていきたいと思います。

※プロボノ … 社会的な目的のために専門技術・知識を活かして取り組むボランティア活動

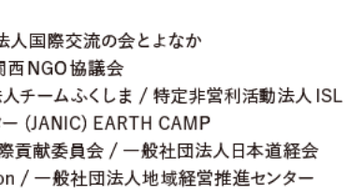


講演に参加した人たちへのアンケート調査の結果。テラ・ルネッサンスが伝えたいキーワードと、参加者が印象に残った（伝わった）キーワードとが異なっていることが分かった。

講演・イベント実績

※順不同

企業・団体	株式会社富士通ラーニングメディア / 株式会社FISソリューションズ / 株式会社ゲットイット / 株式会社本物研究所 コモンズ投信株式会社 / 株式会社中京会計（伊藤圭太税理士事務所）/ 株式会社ピープルフォーカス・コンサルティング 株式会社PRTimes / 株式会社コアエッセンス / 株式会社岡山建設 / 星和電機株式会社 / 鎌倉投信株式会社 株式会社フィデューシャリー・パートナーズ / 近畿労働金庫 特定非営利活動法人きょうとNPOセンター / 特定非営利活動法人国際交流の会とよなか 特定非営利活動法人レキオウィングス / 特定非営利活動法人関西NGO協議会 特定非営利活動法人名古屋NGOセンター / 特定非営利活動法人チームふくしま / 特定非営利活動法人ISL 認定NPO法人環境市民 / 認定NPO法人国際協力NGOセンター（JANIC）EARTH CAMP 公益社団法人日本青年会議所近畿地区京都ブロック協議会国際貢献委員会 / 一般社団法人日本道経会 公益財団法人かながわ国際交流財団 / 一般社団法人Gradation / 一般社団法人地域経営推進センター 独立行政法人中小企業基盤整備機構 / 公益資本主義推進協議会 / 公益資本主義推進協議会愛知支部 公益財団法人佐賀県国際交流協会 室戸ジオパーク推進協議会 / 台湾日本工商会 / 天理教青年会洲本分会 / 天理教青年会島根・香川教区 阿武野中学校PTA / 東京あけぼのロータリークラブ / 岡山ロータリークラブ / 名古屋宮の杜ロータリークラブ
教育機関	佐賀大学教育学部附属小学校 池田市立北豊島中学校 / 佐賀市立小中一貫芙蓉校中等部 / 賢明女子学院中学校 佐賀県立致遠館中学校 / 三田市立ゆりのき台中学校 / 四条畷市立四条畷西中学校 / 明石市立望海中学校 亀岡市立亀岡中学校 / 門真市立門真はすはな中学校 / 京都市立朱雀中学校 大阪府立島本高等学校 / 大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校 / 大阪府立住吉高等学校 立命館守山高校 / 岡山学芸館高校 / 京都府立西舞鶴高等学校 / きのくに国際高等専修学校 高知商業高等学校 / 大阪府立箕面東高校 / 関西創価高校 / 宮崎県立大宮高等学校 学校法人高田学苑 高田中・高校 神戸大学 / 同志社大学 / 龍谷大学 / 甲南女子大学 / 千里金蘭大学 / 横浜市立大学 一橋大学 / 創価大学 / 三重大学 / 龍谷大学短期大学部 / 京都女子大学 / 京都外国語大学 大阪大谷大学 / 台湾大学日本研究センター
行　政	須坂市中央公民館 / 伊那市長谷公民館 / 京都府広域振興局山城NPOパートナーシップセンター 京都府広域振興局中丹パートナーシップセンター / 京都府広域振興局京都丹波NPOパートナーシップセンター 人事院公務員研修所 / 沖縄県自治研修所 / 室戸市役所 / 下妻市役所 / 福知山市役所 / 佐賀県自治修習所
イベント	2020.11.03　第８回 清水寺で世界を語る ～すべての人に健康と福祉を～ 2020.11.22　京都ヒューマンフェスタ2020 （オンライン開催のためビデオ出演） 2020.12.20　ワン・ワールド・フェスティバルFor Youth （オンライン開催のためビデオ出演）



清水寺で開催したイベントの様子

メディア掲載実績（重複を除く）

IBC岩手放送 / 京都新聞 / 東京新聞 / 共同通信 / スポーツ報知 / 千葉日報 / 朝日新聞 / 宮崎日日新聞 / 佛教タイムス
中日新聞 / 読売新聞 / NHK / 関西テレビ / TBS / J-WAVE『JAM THE WORLD』 ほか

＼ アドボカシー・活動トピック ／



調査研究活動が本格始動、平和学会にて発表

テラ・ルネッサンスは、政策提言活動の一つとして小型武器の問題に取り組んでいます。2020年度も小型武器や武器貿易条約に関する情報や課題について、SNSを通して情報発信を行いました。また、今年度より各事業の事業評価を目的とした調査研究活動を始めました。今年度は吉田真衣がコンゴ民主共和国での支援活動を事例に論文を執筆。平和学会2020年度秋季研究大会にて発表を行いました。

＼ 海外ファンドレイジング・活動トピック ／



WEBサイトの多言語化など、海外からの支援を呼びかけ

今後大きな変化が予想される情勢を乗り越えるため、いかなる社会の変化にも対応できるレジリエントな活動が必要です。2020度はその一歩として、「Panasonic NPO/NGOサポートファンド for SDGs」の助成金を活用し、海外の市民社会への寄付の呼びかけを目指し、多言語WEBサイトの強化や、オンラインでの台湾講演を実施しました。日本のみならず、海外を巻き込んだ世界平和の実現を進めてまいります。

コロナ禍の中、試行錯誤を繰り返しながら、佐賀での啓発活動とともに海外における支援活動を推進





佐賀県国際交流協会（SPIRA）の記念式典にて基調講演を実施

2020年11月14日に佐賀市内で行われた佐賀県国際交流協会（SPIRA）の創立30周年記念式典において「支援の現場で学んだひと・チーム・世界の変え方」と題し、基調講演を行いました。佐賀県の国際交流の発展に尽力されてきた団体・個人の皆さまに対し、国際協力の重要性や、コロナ禍における国際協力の在り方について語り、佐賀発信の国際協力の重要性や想いを佐賀県の皆さまと共有することができました。テラ・ルネッサンスが佐賀県に進出して３年が経ち、テラ・ルネッサンスの活動の成果が着実に佐賀県に根付いてきていることを感じられたイベントとなりました。

1 佐賀県国際交流協会（SPIRA）創立30周年記念式典で基調講演をする創設者の鬼丸昌也。
2 佐賀県内貢献団体として、佐賀県国際交流協会（SPIRA）から記念品を受け取る職員の島（右）。

コロナ禍でも、私たちの活動を伝えるために

2020年度はコロナ禍の中、佐賀県内での対面型のイベント開催が困難な時期がありました。そのような状況で、６月にオンライン方式で、下半期には新型コロナウイルス感染対策を徹底し、「テラカフェ in 佐賀」を開催しました。これらのイベントでは、「地域に根差した国際協力」をテーマにゲストとの対談や、新型コロナウイルス緊急支援プロジェクトの成果を報告しました。コロナ禍の中でも可能な限り佐賀県の皆さま、支援者の皆さまにテラ・ルネッサンスの活動を伝えるためにはどうしたら良いかを試行錯誤しながら活動した一年でした。



テラ・カフェ in 佐賀にて、子ども兵問題について語る佐賀事務所スタッフの佐々木。





＼ ふるさと納税（寄附）の活用・活動トピック／

ふるさと納税で、アフリカの新型コロナ対策支援を実施

2020年度にふるさと納税でいただいたご寄附は、佐賀県における学校講演などの啓発活動のほか、アフリカ中東部地域における最脆弱層のレジリエンス向上プロジェクト（P.21,27参照）、同地域での新型コロナウイルス対策支援活動（P.30参照）に活用させていただきました。2020年度も、ふるさと納税による多くのご支援をいただけたことで、特に新型コロナウイルスで苦しむ方々への感染予防・生計支援活動を実施できました。これからも、海外の現場での活動を発展させていくと同時に、国内でより多くの平和の担い手を育むため、佐賀県内での啓発活動も力強く進めてまいります。

1 自立を目指して洋裁の職業訓練に励げむウガンダの元子ども兵の様子。
2 新型コロナウイルスの感染予防のために手洗い設備を設置する様子。

＼ ふるさと納税（寄附）・利用者の声／

私は、ふるさと納税で佐賀のお米を選びました。佐賀が好きというのはもちろんのこと、これまで自分が寄付した分の還付金と同じくらいの値段で、とても美味しいお米が手元に届くというのはとても嬉しいことです。今年は焼き物にしようと考えていますが、どれも素敵で迷っています。いつもテラ・ルネッサンスのメルマガなどを拝見し、自分の知らない世界や現実を知る中で、考え方もまた新しくなっていきます。寄付でしか参加できませんが、ふるさと納税など今できることを継続していくことで、より世界を知っていけたらいいなと思います。

＼ ENJOY ／



（支援者）
藤山さとみさん
（選ばれた返礼品）
佐賀県上場産（棚田米）
「コシヒカリ」5kg



ふるさと納税（寄附）のお申込み・お問い合わせ

・ウェブ｜https://www.terra-r.jp/furusato_tax.html
・電　話｜075-741-8786（受付時間：月 - 金、10:30 - 18:00）

ご支援くださった企業・団体の皆さま

株式会社アイケイ

アルディ・ナ・ウペポ

岡山ロータリークラブ

GreenT株式会社

株式会社ゲットイット

外務省

独立行政法人
国際協力機構関西センター

佐賀県
（ふるさと納税）

宗教法人松緑神道大和山

真如苑

株式会社玉越

タモブランドプロジェクト
株式会社アイ企画

公益財団法人日本国際協力財団

Panasonic NPO/NGO
サポートファンド for SDGs

株式会社バリューブックス
（キフ★ブック）

みてね基金

UN Women ブルンジ事務所

リタワークス株式会社

株式会社アイ企画 / 会津建物管理株式会社 / 愛東運輸株式会社 / 株式会社アイラ / 有限会社アップライジング / ANTASKALANA JAPAN / 有限会社イソ・コーポレーション 伊那食品工業株式会社 / 株式会社VIAJERO / 株式会社ウチヤマホールディングス / 一般財団法人 H2Oサンタエグチホールディングス株式会社 / 株式会社エスグランド 株式会社 FISソリューションズ / LBプロジェクト 代表 山田房子 / 株式会社オーゼン / 株式会社小原工業 / 株式会社オンズ・コンフィアンス / 株式会社オンズホールディングス かつみカイロ整体院 / 加藤貿易株式会社 / かみひとねっとわーく京都 / キムタカ税理士法人 / 京都生活協同組合 / 株式会社栗本ホールディングス / Grobal Giving 株式会社GLOBAL FLAT / 株式会社Kurokawa / ケイ企画 / 株式会社ケンモク / 興亜商事株式会社 / 株式会社Co-Lab / 小林税理士事務所 / NPO法人コミュニティ時津 特定非営利活動法人コンフロントワールド / 株式会社SANYO / 三和パッキング工業株式会社 / 株式会社ジェイ教育システムズ / 特定非営利活動法人仕事人倶楽部 株式会社 JAMAA / 地雷ゼロ宮崎 / 株式会社新経営サービス / 株式会社シンワルプテック / 菅原汽船株式会社 / 鈴久建設株式会社 / 特定非営利活動法人青少年 ワールドサポート21 / 税理士江黒清史事務所 / セフィロス株式会社 / ソフトバンクモバイル株式会社 / 大真エンジニアリング株式会社 / 株式会社銚子大洋自動車教習所 株式会社塚腰運送 / テレコムクレジット株式会社 / 東北店技研クラブ / 有限会社 徳久 セブンイレブン佐野工業団地店 / 友岡冷機株式会社 / ドラゴンキューブ株式会社 有限会社トリオ商事 / 株式会社南海 / 株式会社西井製作所 / 株式会社日本ライフサポート / 株式会社ノア動物病院 / 橋本ポンプ株式会社 / ひなぎく株式会社 / 株式会社 ひなたぽっこ / 毎日新聞大阪社会事業団 / 株式会社マジックランプ / 株式会社みしまや / 株式会社三井酢店 / 水戸ヤクルト販売株式会社 / 株式会社ユニバースプロダクツ 株式会社ライフウィズ / 株式会社リアルM / 弁護士法人 ロウタス法律事務所 / 株式会社 Local Power / 私と地域と世界のファンド / 株式会社ワタナベ美装

※五十音順・敬称略　2020年度中に一定以上のご支援をいただいた法人・団体の皆さまを掲載しております。

ご支援いただく皆さまの声

社会の共感を呼び込んでいってほしいと願っています。

テラ・ルネッサンスの、地球規模の視点を持って現場での問題解決に取り組んでいる姿勢に共感しています。現場で生まれる多様な人々のストーリーに、社会の共感を呼び込んでいってほしいと願っています。さらに、テラ・ルネッサンスのような自立したNPOに多くの人の応援が集まっていくような状況が、「世の中がいい方に向かっている」ということだと私は考えています。いずれNPOと企業の垣根は取り払われていくでしょう。これからも同志として、共に国境を越えて問題解決に取り組んでいきたい存在です。



株式会社アイケイ
代表取締役会長 CEO
飯田 裕 さん
法人寄付

子どもを持つ親として衝撃を受けたことを覚えています。

「テラ・ルネッサンス千葉*」が発足したのは横山代表を中心に2013年4月。創設者である鬼丸氏の講演『ぼくは13歳、職業、兵士』を聴き、当時7歳になる子どもを持つ親として衝撃を受けた事は今でもハッキリと覚えています。そして戦争の原因が、普段私達の生活必需品の原料を奪い取る為と知り更に大きな衝撃を受けました。戦争に利用、使い捨てられた子どもへの自立支援活動を「一日当たりジュース1缶分の僅かな資金で、元子ども兵の生活再建（自立）を支えることができる」を合言葉に「後援会千葉」として活動して参ります。

※ 法人サポーターとしてテラ・ルネッサンスを支援する千葉県内の経営者者により結成した組織。



鈴久建設株式会社
代表取締役
鈴木英人 さん
法人サポーター

役に立っていることが嬉しく、勇気づけられたりしています。

1回の外食分を寄付してみようと軽い気持ちではじめましたが活動の報告が送られてくるたびテラ・ルネッサンスさんの活動を通して少しでも役に立っていることが嬉しく、わたしの方が勇気づけられたり自信になったりしています。ありがとうございます。創設20周年おめでとうございます。寄付以外も手軽に出来る支援があることを知り楽しみながらできています。子どもが産まれいろんな方の助けが今まであったと気がつきました。わたしも少しでも助けになればと思います。



専業主婦
矢野愛子 さん
ファンクラブ会員

2020年度決算ならびに2021年度予算

（単位：円）

Ⅰ 経常収益の部			2020年度 予算	2020年度 決算	2021年度 予算
1. 会費収入			63,000,000	64,295,000	76,000,000
2. 寄付収入			92,000,000	81,299,595	92,132,000
3. 事業収入			40,313,480	33,770,769	34,242,809
4. 助成金等収入			90,728,273	63,892,218	150,995,947
5. その他収入			0	786,196	0
経常収益合計			286,041,753	244,043,778	353,370,756
Ⅱ 経常費用の部					
1. 事業部門	海外事業	カンボジア事業	24,797,380	28,925,695	21,641,711
		ラオス事業	24,322,863	14,027,321	19,133,345
		ウガンダ事業	70,275,480	69,314,505	46,178,977
		コンゴ事業	32,298,755	27,186,443	115,676,027
		ブルンジ事業	15,181,014	19,130,540	23,349,103
	国内事業	大槌刺し子	23,886,710	16,994,282	19,296,518
		啓発事業	63,134,803	54,126,547	88,884,029
		政策提言推進室	4,108,673	1,984,110	9,024,304
		ブランディングデザイン室	-	-	3,767,080
	その他の事業		0	172,389	0
2. 管理部門			21,219,442	9,149,616	21,152,710
経常費用合計			279,225,120	241,011,448	368,103,804
当期経常増減額			6,816,633	3,032,330	▲ 14,733,048

※2021年度より、東日本大震災復興支援事業は大槌刺し子へ名称変更、アドボカシー（政策提言）は政策提言推進室として組織変更を行いました。

国際協力事業費明細

（単位：円）

カンボジア事業	地雷撤去支援プロジェクト	944,039
	地雷埋設地域村落開発支援プロジェクト	9,926,141
	地雷埋設地域の脆弱な障害者家族への生計向上支援プロジェクト	18,055,515
	合　計	28,925,695
ラオス事業	社会的弱者家庭への不発弾回避教育と生活基盤整備支援プロジェクト	14,027,321
	合　計	14,027,321
ウガンダ事業	ウガンダ北部における元子ども兵社会復帰支援プロジェクト	9,095,411
	南スーダン難民居住区及びホストコミュニティにおける自立支援プロジェクト	34,815,409
	ウガンダ北部における畜産支援による酪農組合開発事業（第2フェーズ）後方支援事業	1,005,743
	新型コロナウィルス対策支援事業	24,397,942
	合　計	69,314,505
コンゴ事業	南キブ州における最脆弱層世帯の養蜂ビジネス起業支援プロジェクト	4,804,442
	南キブ州における子どもの徴兵予防プロジェクト	3,948,321
	中央カサイ州における紛争の影響を受けた最脆弱層女性に対するレジリエンス向上プロジェクト	5,032,565
	新型コロナウィルス対策支援事業	13,401,115
	合　計	27,186,443
ブルンジ事業	ブルンジ農村部コミュニティにおける社会的弱者（EVIs）世帯の自立と自治支援プロジェクト	12,548,076
	ブジュンブラルーラル県における帰還民女性・国内避難民女性の社会経済的エンパワメントプロジェクト	3,743,376
	新型コロナウィルス対策支援事業	2,839,088
	合　計	19,130,540

独立行政法人 国際協力機構からの業務委託事業

（単位：円）

事業名称　※順不同	事業収益	前受金	対象事業
1. 草の根技術協力事業	9,985,880	0	カンボジア事業
2. NGO等活動支援事業	4,085,853	1,509,372	啓発事業

助成金内訳

（単位：円）

助成機関　※順不同	受取助成金	前受金	対象事業
1. 外務省 日本NGO連携無償資金協力	9,603,440	13,496,132	ラオス事業
2. 京都生活協同組合 社会貢献活動助成金制度	300,000	0	ラオス事業
3. 外務省 日本NGO連携無償資金協力	31,868,982	11,372,870	ウガンダ事業
4. 公益財団法人 日本国際協力財団	1,183,414	1,960,175	ウガンダ事業
5. 公益財団法人 風に立つライオン基金	1,000,000	0	ウガンダ事業
6. 株式会社フェリシモ 地球村の基金	1,000,000	0	ウガンダ事業
7. 公益財団法人 京都地域創造基金	990,430	0	ウガンダ事業
8. 公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団 世界子ども救援金	0	300,000	ウガンダ事業
9. 宗教法人 真如苑	1,666,667	2,000,000	コンゴ事業
10. 株式会社フェリシモ たすけあい基金	500,000	0	コンゴ事業
11. 公益財団法人 日本国際協力財団	8,000,000	0	ブルンジ事業
12. 国際移住機関	1,859,448	0	ブルンジ事業
13. 私と地域と世界のファンド新型コロナウイルス緊急支援基金	300,000	0	ブルンジ事業
14. 国連女性機関	3,147,423	0	ブルンジ事業
15. パナソニック株式会社 Panasonic NPO/NGOサポートファンド for SDGs	185,000	1,815,000	啓発事業

［上記に伴う各案件名］(1) 社会的弱者家庭への不発弾回避教育と生活基盤整備支援プロジェクト / (2) ラオス不発弾汚染地域の職業訓練受講者の技能向上によるレジリエンス向上 / (3) 南スーダン難民居住区及びホストコミュニティにおける自立支援プロジェクト / (4) ウガンダ北部における畜産支援による酪農組合開発事業（第２フェーズ）後方支援事業 / (5) コロナショック下における難民及び最貧困層の生活・生計支援 / (6) ウガンダ北部における新型コロナウィルス対策支援事業 / (7) ウガンダ北部における元子ども兵社会復帰支援プロジェクト / (8) コロナ禍における紛争被害女性の生計支援を通じた子どもの命と暮らしを守る支援事業 / (9) 南キブ州における子どもの徴兵予防プロジェクト / (10) コロナ禍で生き抜くための感染予防と生計向上支援 / (11) ブルンジ農村部コミュニティにおける社会的弱者（EVIs）世帯の自立と自治支援プロジェクト / (12) マカンバ県ニャンザラック郡における帰還民・国内避難民・ホストコミュニティの能力強化を通したコミュニティレジリエンス促進プロジェクト / (13) 世界最貧国ブルンジでの新型コロナウィルス感染症対策支援事業 / (14) ブジュンブラルーラル県における帰還民女性・国内避難民女性の社会経済的エンパワメントプロジェクト / (15) 広報媒体の多言語化を活かしたファンドレイジング海外展開プロジェクト

貸借対照表（2021年3月31日 現在）

（単位：円）

Ⅰ 資産の部			Ⅱ 負債の部		
1. 流動資産			1. 流動負債		
現金預金	161,093,763		未払金	6,005,648	
売掛金	507,842		前受金	32,920,766	
未収金	12,485,791		預り金	470,816	
商品	4,703,961		未払法人税等	223,000	
前払費用	380,598		未払消費税等	515,400	
立替金	311,337		流動負債合計	40,135,630	
マイクロクレジット	1,917,311		2. 固定負債		
流動資産合計	181,400,603		長期借入金	50,710,210	
2. 固定資産			固定負債合計	50,710,210	
有形固定資産	6,956,412		負債合計	90,845,840	
投資その他の資産	991,116		Ⅲ 正味財産の部		
固定資産合計	7,947,528		1. 指定正味財産		
資産合計	189,348,131		当期指定正味財産増減額	56,691,034	
			2. 一般正味財産		
			前期繰越一般正味財産	39,001,927	
			当期一般正味財産増減額	2,809,330	
			正味財産合計	98,502,291	
			負債及び正味財産合計	189,348,131	

監査報告書

原本は別途保管しております。

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス　理事長 小川真吾　殿　　2021年5月26日　特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス　監事 伊藤圭太

私は、2020年4月1日から2021年3月31日までの2020年度における会計及び業務の監査を行い、次の通り報告する。

1、監査の方法概要
（1）会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など、必要と思われる監査手法を用いて計算書類の正確性を検討した。
（2）業務監査について、理事から業務の報告を徴収し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2、監査意見
（1）活動計算書、貸借対照表及び財産目録は会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支状況及び財産状態を正しく表示していると認める。
（2）業務報告書の内容は真実であることを認める。（3）理事の業務執行に関する不正の行為、又は法令もしくは定款に違反する重大な事項はないと認める。　以上

様々な方法で、テラ・ルネッサンスの活動にご参加ください。

寄付で応援 ····· 当会へのご寄付は、寄付金控除などの税制上の優遇措置の対象です。

継続して寄付

個人の方	**ファンクラブ会員（月々1,000円から）** 利用方法：クレジットカード、口座振替
法人の方	**法人サポーター（月々5,000円から）** 利用方法：クレジットカード、口座振替



個人の方、団体・法人の方、それぞれ継続的にご支援いただける会員制度をご用意しています。特典としては、年次報告書や、ニュースレター、海外からのポストカードなどをお届けしています。お申し込みはホームページ、またはお電話でも受付中。また、すでに会員の方は、金額の変更も可能です。お気軽にお問い合わせください。

今回のみ寄付

● 一般寄付 利用方法：クレジットカード、郵便・銀行振込	**● ふるさと納税（寄附）** 利用方法：クレジットカード、郵便振込用紙※

寄付金の控除額には一定の限度額があります。詳細は、最寄りの税務署にお問い合わせいただくほか、ふるさと納税の場合は、総務省の「ふるさと納税ポータルサイト」をご覧ください。総務省の通知（平成31年総務省告示第179号第2条第1号ニ）により、佐賀県民の皆様からのご寄附につきましては、返礼品をお選びいただけないことになっております。ご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。また、法人としてふるさと納税のご寄附をされた場合に返礼品をお受け取りされると、受贈益として計上されますので、ご注意ください。（※ふるさと納税の郵便振込用紙をご希望の際は、テラ・ルネッサンス事務局までお問い合わせください。）

古着や古本、不要になったモノの回収で応援

フクサポ
対象：コート、シャツ、ズボンなど

キフ★ブック
対象：ISBNのある本、CD・DVDなど

着なくなったシャツやズボン、読まなくなった本やCD・DVDなどを回収して支援ができる『めぐるプロジェクト』。身近な国際協力として、幅広くご好評いただいています。その他にも書き損じはがきなど、不用品の回収支援は、様々な種類をご用意しています。詳しくは、テラ・ルネッサンスのホームページをご覧ください。

ご支援のお申込み・お問合わせは、テラ・ルネッサンス事務局まで

電話 075-741-8786（月-金 10:30-18:00）　FAX 075-741-7965
メール contact@terra-r.jp　Web テラルネッサンス 検索

テラ・ルネッサンス 団体概要

（2021年3月末日）

正式名称	特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス	理事長	小川真吾
設立年	2001年（2005年 法人格取得、2014年 認定NPO法人となる）		
活動対象国	カンボジア王国 / ラオス人民民主共和国 / ウガンダ共和国 / コンゴ民主共和国 / ブルンジ共和国 / 日本		
海外・国内事務所	本部事務局（日本 京都府） 佐賀事務所（日本 佐賀県） 大槌事務所（日本 岩手県） カンボジア事務所（カンボジア王国バッタンバン州） - フィールド事務所（バッタンバン州カムリエン郡） ラオス事務所（ラオス人民民主共和国シエンクアン県） ウガンダ事務所（ウガンダ共和国グル県） - フィールド事務所（アジュマニ県パギリニア難民居住区） コンゴ事務所（コンゴ民主共和国南キブ州） - フィールド事務所（南キブ州カレヘ行政区カロンゲ区域、中央カサイ州カナンガ市） ブルンジ事務所（ブルンジ共和国ブジュンブラ市） - フィールド事務所（ムランビヤ県キガンダ郡、カヤンザ県）		
海外における主な協力団体	●カンボジア Mines Advisory Group（MAG） The Department of Agriculture, Forestry, and Fisheries in Battambang Province Community Rural Development and Natural Agriculture for Supporting Environment（CRDNASE） ●ラオス MAG-Lao / UXO-Lao / National Regulatory Authority for UXO/MineAction Sector in Lao PDR, The Ministry of Labour and Social Welfare ●ウガンダ Office of Prime Ministry / Gulu district / Ajumani District [redacted] World Vision Uganda / Refugee Law Project / The Center for Victims of Torture / Gulu NGO ForumGulu NGO Forum ●ブルンジ Kiganda Commune Office / Muramvya Province / Kayanza Province / UN Women ●コンゴ South Kivu Province / Central Kasai Province / UNOCHA / UNDP		

理事	小川真吾 / 鬼丸昌也 / 中井隆栄 / 岡田則子 / 新居真衣 / 渡邉真規 / 江角泰
監事	鯉田勝紀（～2020年7月4日） 伊藤圭太（2020年7月4日～）
スタッフ	●本部事務局（京都） 有給専従職員 9名 有給非専従職員 3名 インターン 8名 ●大槌事務所（岩手） 有給専従職員 2名 有給非専従職員 1名 ●佐賀事務所（佐賀） 有給専従職員 1名 ●カンボジア事務所 日本人有給職員 1名 ローカルスタッフ 6名 ●ラオス事務所 日本人有給職員 1名 ローカルスタッフ 7名 ●ウガンダ事務所 日本人有給職員 2名 ローカルスタッフ 41名 インターン 2名 ●コンゴ事務所 日本人有給職員 0名 ローカルスタッフ 21名 ●ブルンジ事務所 日本人有給職員 1名 ローカルスタッフ 6名
会員数	ファンクラブ会員 2,181名 / 正会員 60名 / 個人賛助会員 110名 / ジュニア賛助会員 5名 / 団体賛助会員 23団体 法人サポーター 190団体 【 定款上の会員合計 2,351名・218団体 】
加盟団体	（特活）関西NGO協議会 / （特活）国際協力NGOセンター / 日本小型武器行動ネットワーク （特活）地雷廃絶日本キャンペーン / 児童労働ネットワーク / SDGs市民社会ネットワーク 市民ネットワーク for TICAD / 新公益連盟 / 国際小型武器行動ネットワーク（IANSA） グルNGOフォーラム / 関西SDGsプラットフォーム / 佐賀NGOネットワーク / 大槌商工会 / （一社）大槌町観光交流協会

Terra Renaissance
ひとり一人に未来をつくる力がある
認定NPO法人 テラ・ルネッサンス

〒600-8191 京都府京都市下京区五条高倉角堺町21番地 jimukinoueda bldg.403号室
TEL：**075-741-8786**　FAX：**075-741-7965**　E-mail：**contact@terra-r.jp**
HP：www.terra-r.jp　Facebook：terra.ngo　Twitter：@terra_ngo

表紙／ウガンダの小学校が再開した際、布マスクと一緒に感染予防のポスターを配布している様子。

本書の一部または全てを複写・転載引用する際には、予めテラ・ルネッサンス事務局までご連絡ください。 © 2021 Terra Renaissance
発行◎ 2021年 8月　/　デザイン協力◎ 大木美登里　戸田優希子